

南学園に赴任して一度目の季節が巡り、時の流れの速さを痛感している。今年は桜の開花が大幅に遅れ、鹿児島では例年より十日余りも遅かつたようだ。お陰で本校正面玄関奥の桜は、入学式に合わせたかのように見事に咲いてくれた。昨年は、既に葉桜になつていたのが少し残念だったことを思い出す。「世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」という歌に独り頷き窓の外を眺めると、午前中ぱらついていた雨もいつの間にか上がり優しい陽が差していた。入学して最初のホームルームを終え出てきた学生の笑顔が輝いている。満開の桜を背景に、愛娘の晴れ姿をカメラに納める父親らしい人の何とも幸せそうなことか。学生と連れ添つて出てきたご家族の方が、次々に写真を撮ろうと桜の前で立ち止まり、瞬く間に人だまりができた。風に揺れ微笑みかける花にみんなの笑顔がこぼれ声が弾む。昨年は見られなかつた光景で新鮮に映る。やはり桜の花には人の心を惹きつけられる魅力があるのでだろうと思いつ

窓の外の光景に、その責任の重さを新たにしていると、3月社会人として本校を飛び立った卒業生の活躍する姿が、頬もしく浮かぶ。そして長期の臨地実習を終え、それまでの学びの総括として卒業研究論文に取り組み発表する姿が鮮明に蘇ってきた。実習中、患者様から「どうせ先は短いのだからほつといてくれ」と言われた学生が、「この患者様のことを少しでも理解しよう」と思つて、この方の生きてこられた時代についていろいろ調べたとの学生の発表に胸を熱くした。患者様にここまで深く寄り添おうとするしたかな心は、どのようにして培われたのだろうと思いを巡らすと、それまでの学びの実践をとおして建学の理念「真愛」が、自然に心に染み込んでいったのではないかとの思いに至つた。一人一人の発表を聴きながら、「命とは?」、「生きるとは?」、「豊かな人生

喜んでくれていると思うととても嬉しい気持ちになり、この方々の信頼と期待に応えねばとの思いを一層強くした。

本校の使命は、一人一人の新入生を豊かな人間性と確かな専門性を身に付けた医療福祉の専門職業人に育て、地域社会で活躍する人材として送り出すことである。

命の輝きを求めて



卷之二

名著作品集

発行所
鹿児島市田上八丁目
21番3号
学校法人 南学園
鹿児島医療福祉
専門学校
TEL(099) 281-9911

5月中旬にあつた新入生宿泊研修では、建学の理念「真愛」の理解を深め、「わたくしの誓い」を確認した。5つある誓いの2つ目「夢に向かって進みます」の夢とは、「国家資格を取得して、○○師（士）になる」ということか」と問い合わせ、自問自答してもらつた。私は「夢はその先にあって、○○師（士）である自分と対象者（患者様など）の心を互いに通わせ、命の輝きと共に実感しながら医療福祉のスペシャリストの道を極めていくことではないだろうか」と投げ掛けた。一人一人の学生が、医療従事者としての誇りと責任を持って、真に豊かな人生を築いて欲しいと願つてゐる。

ところで本校は、人の命と向き合う専門職業人に求められる実践的教育の取組が評価され、去る2月、助産学科を除く全学科で文部科学大臣から「職業実践教育成に努めてきた。実習施設等と密接に連携したこれまでの実践的教育の取組が評価され、去る2月、助産学科を除く全学科で文部科学大臣から「職業実践専門課程」の認定を受けた。

今後、医療技術は日々進歩しチーム医療が重視される中、医療従事者には、より高い専門性とコミュニケーション力及び学び続ける姿勢が強く求められる。本校は、常に時代の要請に応えうる人材の育成を目指して、教職員一丸となつてさらに関係施設・機関の皆様の御理解と御協力を心からお願ひいたし

平成29年度入学
～夢、実現。新たに
4月6日、本校体
て平成29年度入学式
賓・保護者の御臨席
に挙行された。

式では、5学科2
入生に対し、瀬戸上
ら「新入生の皆さん
大切なことは、入学を
とその目的を明確に
に学ぶ意識を強く持
す。本校は、建学の理
を取組の根底に置き
するよう他者を愛
の愛の本質に迫りな
を磨き、高め実践し
追求して います。一
役であることを自覚
理と自己管理を徹底
テージ一杯に学びの
ンスを楽しみましょ

平成29年度入学式挙行 夢、実現。新たなスタート

「人のために自分が楽しむ」「きついときは楽しくする」「人間って素晴らしい」という感動

「感謝する気持ち(電気、水、人物など)」

語られたのち、スライドの映像を使い、南極までの航海の様子をわかりやすく話された。

田先生は、日本南極地域観測隊の宮崎講師の傍聴で、南極観測隊に医療担当として二度参加され、南極観測隊の制服である作業着、ヘルメット姿で登場している。学生時代、救命救急医時代のエピソードをユーモアをまじえて語る。

去る3日
16日、創立
記念講演会
が本校で開
催されました。

演題 「無限に広がる氷の大地、そこで私が得たもの……」
講師 [医療法人開南] 池田診療所理事長 宮田 敬博 先生

学生なんでも相談室長

心耳

も相談室長
花田 明美

心耳
学生なんでも相談室長 花田 明美

「一番がいたら必ずビリもいる。当たり前のことだ。ビリが嫌なら次は誰かに代わって貰えればいい。今回はお前がビリの当番だつたんだ。また、留年や学校に行けない等、そんな小さなことで悩む必要はない。生きているだけでもいい。道はいくらかあるのだから」

高校2年の時に一時不登校になり、学期末試験でビリになってしまった私への父の言葉である。

父は終戦後、マイナス40度のシベリアで4年間捕虜となり、毎日目の前で仲間が死んでいく過酷な労働を強いられたといふ。『俺が生き延びたお蔭でお前は生まれた。生きてさえいれば、必ず良いことがある』私の存在を認めてくれた父の言葉は、まるで魔法の言葉のように私の心に響いた。

急に学校に行けなくなつた私は周囲から「あなたの未来は真つ暗。進級も出来ず大学へも行けない。就職も結婚も出来ず子供も育てられない」とダメダメの言葉のシャワーを思い切らり浴びせられ、自分はだめな人間だと思うようになり、ついにビリになつた。ビリは辛く、周りのみんながすごく偉くみえて、自信も元気もどんどんなくなつていった。

しかし、父の言葉で急にやる気の出た私は、次の試験からはビリの当番も回つて来ず、無事進級し、その後進学、就職結婚、子育てを経験した。そして、人間は責められるより価値を認めて貰う方がやる気が出るという考え方を持つようになつた。人間は自己成長力を持つて、人間は責められるより価値を認め、自分を信じる事が自己成長力を伸ばしてくれるのかもしれない。

シベリアで生き延びた父の命は、私↓私の娘↓私の孫へと受け継がれている。

全学年が参加する一大行事です。先日、入学したばかりの1年生にとつては、同級生だけではなく学科・学年を越えて交流を深めることができる貴重な機会でもあります。2・3年生は、昨年、試合の途中で雨が降り始め中止となつた去年の分まで取り返すかのように気持ちが燃えていました。開会式、部活動紹介、準備運動の後にメインイベンツのクラス対抗ドッジボーリ大会が行われました。私は、実行委員長を務め、試合に参加しつつ、試合が無い時は審判をしていました。コートの中から見ても、外から見ても全員燃えているなど、非常に燃えています。

思いを新たにした宿泊研修

歯科衛生学科1年 山下 麻佑

とらたもも 園科衛生学科1年 日下 麻佑

ご自身の体験談から学んだことを話してください。日記をつけたり、振りかえると、いうアドバイスください。さり、今後の参考になるのを教わりました。心に残つイベントや反省しなければならない点などを日々記録しよう、この講話を通して思いまし



を受ける態度などは見直していくべきだと思いました。自分に足りない点を見つけて、同じ夢を目指す仲間達と助け合い、もつと向上していくために、頑張つていいこうだと思います。宿泊研修は、とても良い体験ができ、とても楽しいものでした。

4月15日（土）、健康の森公園で新入生歓迎会が実施されました。本校の全学科・全学年が参加する一大行事です。先日、入学したばかりの1年生にとっては、同級生だけではなく学科・学年を越えて交流を深めることができる貴重な機会でもあります。2・3年生は、昨年、試合の途中で雨が降り始め中止となつた去年の分まで取り返すかのように気持ちが燃えていました。

開会式、部活動紹介、準備運動の後にメインイベン

トのクラス対抗ドッジボーリ大会が行われました。私は、実行委員長を務め、試合に参加しつつ、試合が無い時は審判をしていました。コートの中から見ても、外から見ても全員燃えているなど

天候に恵まれた新入生歓迎会

実行委員長 理学療法学科2年 大迫 一希

思いました。試合が進むにつれて、各コートの応援がより一体化して盛り上がりつていきました。そして、男子の部と女子の部での決勝戦に突入した時の応援は、すさまじい熱気に包まれました。男子の部の優勝は、理学療法学部2年1組で、女子の部は、理学療法学科3年生でした。

午後からは、各クラス毎のオリエンテーションでしたが、みんなの意見で自由時間となり、より多くの人と触れ合うことができました。いつの間にか、学年を越えて交流を深めていたので全員がこの交流の機会を十二分に満喫していました

思います。そして、歓迎会も終盤になり、気がつけばみんなの顔が真っ赤に日焼けしていくま

帰りのバスでは、心地よい疲労感からか眠っている人が多數でした。本当に楽しめたんだなと実感しました。学科・学年の枠を越えてコミュニケーションをとることができ、実りある新入生歓迎会でした。



「職業実践専門課程」

「職業実践専門課程」とは、文部科学大臣が、修業年限2年以上の学科について認定するもので平成25年度から始まった。企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身に付けるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程のことである。

鹿児島県知事賞ほか9部門の表彰
彰と皆勤賞、全国専門学校体育連盟スポーツ賞が、それぞれ受賞者に授与された。
学校長式辞、南正義理事長生
示、送辞、答辞の後、卒業生主
催の謝恩会が開催された。コ
ーディネートでは各学科の卒業記念に
作成された映像が流れされ、共に
過ごした学生生活の心に残る坦
白に大いに盛り上がった。卒業
生は、それぞれの新しい旅立ち
に夢と希望を膨らませ、卒業の
喜びと感動に浸っていた。
また、卒業を記念して卒業生
から学校掲示板が贈られ、本校
3号館入り口に設置された。

平成28年度卒業式挙行 ～新たなる旅立ちの日～

社会人からの挑戦



立戸2年度卒業式举行 ～新たなる旅立ちの日～

理學療法学科1年
浦谷 劍



理学療法の勉強は覚えることが多く、普段聞くことのない単語や語句なども日々あります。しかしこれを学ぶことが将来の理学療法士として働く私自身につながっていくのだと思います。

今回入学するにあたって援助していただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、その人たちや今勉強を教えていただいている先生方へ恩返しができるよう、立派な理学療法士を目指して頑張つて行きたいと思います。

そうとしたか、それは私自身が今まで行つてきた仕事で、より専門的知識が必要だと感じたからです。

現行の社会で益々大切にされている「互恵」「互助」の精神はお互に助け合い、学び合い、恵み合い、補い合う事を意味しますが、日本の社会には古くから「相身互い」という言葉も伝わっています。「互恵」「互助」はどんな人であれ相手を同じ人間として尊重し違いを認め、理解し受け入れ、助け合つて共に生きる事を実践していく社会を目指すのです。

人は普段、何不自由なく心身共に元気で生活している時は、いつもでも自分の力だけで生きていけると錯覚を起こしがちですが、人生を通じてそうであるわけではないという事も感じています。そしてみんなが折々で誰かの役に立つ事によつて補い合い日常を作つています。

当然のことながら、人は皆誕生してからこの世を去るまで多くの人々の世話になつて生きています。ですが、また自分も誰かの役に立ちながら生活しています。この世で誰の役にも立たず人生を終える人はいないのではないかでしょうか。役に立つといつても、多くはごく小さな事で本人も当たり前のこととして気づかない程のことがも知れません。又、周囲に世話を掛け過ぎ手を焼かせ迷惑ばかりかけてきたと悔い悩んできた人も相手様の気持を和ませた瞬間があったと思います。人はお互に支え合つて生きています。それは、



「互恵」のころ

理学療法学科
歯科衛生学科

りの赤ちゃんや乳幼児、最重度の障害児でも笑顔で周囲の人たちに喜びや癒しを与える顔にしてくれ、年老いて身の回りの事が不自由になられたご長寿者も介護を担う方々に対する感謝の言葉「ありがとうございます」の一言でその人に人の役に立つ喜びをあげていることからもわかります。

「人の役に立つ喜び」それは些細な事でも心を豊かにし潤し成長させてくれます。このことを考えると、これから的人生を職業を通して社会に貢献し、人様の苦痛を和らげ自立を支援していく道に進む本校の学生の皆さんは、幸せなことにその機会に沢山恵まれる事でしょう。しかし専門職としての貢献ですから常に努力と研鑽が欠かせないことがあります。

その時役に立つ考え方が「互恵」「互助」の心です。接する人から学ぶ『学び合う』、病の回復、障害の緩和等の時一緒に「喜び合う」ということです。仕事に携わる中でも目の前の患者さんから学ぶ、利用者さんから教えてもらう事は多々あります。特に人生を長く歩いてこられた方々はそれなりに色々な沢山の経験を積まっていますが、病や障害に遭い皆さんは達に専門の指導を受けたり、看護、介護のお世話を受けたりされる時、皆さん達を頼もしく思ひ、応援したい気持ちを持つ

セラピストが喜んでくれるから苦しいりハビリを頑張れた」と笑つて話してくれた知人の高齢男性がいます。人は皆心の中に何かに「人を喜ばせたい」という想いもあると思います。様々な場面で正に「相身互い」を感じます。

小説『宮本武蔵』の著者で有名な作家、吉川英治の「我以外皆わが師」という言葉は、若い時だけなく社会福祉の仕事に就いてから益々実感しています。

私は人生の中間点位の時期に全く関係のないそれまでの仕事から転職し福祉の世界で対人援助の一端を担う仕事に就く機会に恵まれましたが、正に周囲は人生の先輩方ばかりで、ゼロから出発の私はかえってそのご利用者様方から様々な指導を受け専門の勉強に加えて大きな実りを得ました。

特に認知症を患つていらつしゃる方は何もかもわからなくなつてしまつた方と当時は今より固く思われていましたが、寄り添つてじっくりお話をお聴きしますと物忘れや判断力低下等に伴う苛立ちや悲しみ、やるせなさ等々を話して下さいました。私は認知症がどんな疾患か、その方がどうの様な不自由さや不安を抱えていらっしゃるか、どの様な事で安心されるか等を真に知ることが出来、今でもその面でわが師の方々と思つてします。

「相手様から学ぶ」気持を大事にしてください。私達はその方（患者さん、利用者さん）にはなれませんので、苦みや痛み、不安、困りごとはご本人から教えてもらうしかないからです。

「互恵」「互助」の気持はどんな時でも皆さんの成長の糧になります。



助産学科
東川聰子

助産学科 東川 晴子

**専任教員養成講習会の
研修を終えて**

看護学科
鎌田 由美



専任教員養成講習会の 研修を終えて

教授し、共に学ぶとはどういうことであるのか?という迷いと自信のなさから不安が強く、克服する方法を探求してきました。今回、8ヶ月間に及ぶ専任教員養成講習会を受講する機会をいただき、私にとって非常に意義のある深い学びを得ることができました。

講習会の中で、看護教育とは「個人・家族および集団の最適な健康状態を目指し、その人にとつて最も看護を提供できる専門職業人を育成するための教育のこと」をさす包摺的な概念である(小山氏)と定義されています。このことを学びました。また、教育には大きく2つの側面があり、それは、①看護職になるための教育②看護基礎教育と継続教育を合わせた看護職の生涯教育を指しています。この2つの教育を実践するために、看護教育制度・カリキュラム・教育方法・評価方法等の基礎を学ぶことができました。そして教育には全て意図的な目的があることを学びました。それは社会背景や制度を踏まえ、学校の教育理念を基に教授方法を構築し、具体化及び自己理解ののちに学生へ教授しなければならないことです。また学生に答えを与えるのではなく、学生の思考を刺激し、学生自身がイメージ化した上で理解し、学習意欲が向上するよう、学習過程を共に育むことが必要であることを学ぶことができました。看護は観察力や気づくことが重要です。今はまだ学生の気づきを引き出すことは不充分ですが、講習会での学びを活かし、看護教育者として学生の気づきを大切にし、学ぶ目的を確認しながら、共に学び向き合っていきたいと強く思いました。それは、私達が先輩方から学んできた看護を伝授していくことに繋がり、私達の重要な役割であると考えます。さらに、医療・福祉に携わる者として人間関心を持ち、思いやりの心と配慮を忘れないように自己研鑽していきたいと考えます。

